

1 実施日

令和5年12月13日（水）

2 視察先

浜松市立中央図書館（浜松市中区松城町214-21）

浜松市立流通元町図書館（浜松市東区流通元町20-2）

磐田市立中央図書館（磐田市見付3599-5）

3 視察内容

- (1) 市直営及び指定管理者制度による図書館運営について
- (2) 市中央図書館としての中心的な役割について
- (3) 浜松市内図書館の中での独自性の工夫について
- (4) ICタグ導入による図書の管理、貸出、返却の自動化について

4 出席者

図書館協議会委員 4人

図書館協議会事務局 4人

5 視察の概要

(1) 浜松市立中央図書館

①市直営及び指定管理者制度による図書館運営について

- ・浜松市立図書館は、市直営5、民間事業者による指定管理18から成る。
- ・指定管理によるメリットは、指定管理者の意向に沿った運営ができる、スピーディーな対応ができる、等。デメリットは、指定管理18館をそれぞれの協定で運用しており煩雑である、選書は中央図書館が一括で行うため人手がかかる、除籍図書・資料の持ち込み・確認・持ち帰りが必要で、職員の負担が大きいこと、等。
- ・図書館間連携について、指定管理者との協定に無い事項については都度協議が必要。

②市中央図書館としての中心的な役割について

- ・中央図書館と各館との連携・情報共有は、電話、FAX、メールの他、図書館LANシステムで行っている。また、委託業務にて連絡便を設けている。
- ・中央図書館と各館が連携するための会議として、年2回、館長会議を開催。会場への参加のほか、オンラインにより実施しているが、共通する課題が発生した場合は、都度実施。指定管理館とは協定に基づいて実施しているが、指定管理館が行おうとする事業については、直営館長の決裁が必要。
- ・各職員の日程上、担当が不在の日もあり、案件が発生したとき、窓口等での即時対応が困難な場合があるため、市側で運営や業務に関するマニュアルを作成し、対応。
- ・館内の物流は南北の2台で連絡便を実施。連絡便は民間事業者に委託。

③ICタグ導入による図書の管理について

- ・2006年（平成18年）10月の12市町合併の際に導入。番号の貼り替え、変更等の大規模な作業が発生。システム導入により、日常点検における利便が向上したほか、蔵書点検の効率化による休館日数の削減、BDS（不正持ち出し防止装置）による不明図書の減少がある。
- ・メリットは、①複数の資料を一度に処理可、②BDSを含めた一度での処理可、③蔵書点検の日数が7日から5日程度に削減、④不明図書の減少、⑤作業時間、借りるまでの待ち時間の短縮、等が挙げられる。デメリットは、①費用増（特にICタグ装備）、②電波が不安定である（表紙がメタリックなもの等）、③10冊以上での一度で

の読み取りが不十分で、結果処理したにもかかわらずBDSが鳴る場合がある。

- ・自動貸出機は導入しているが、自動返却機は導入していない。

④老朽化に伴う大規模改修により改善が図られた点等

- ・グループで話ができるよう、グループ学習室を設置。
- ・音がほとんどない環境を希望したため、読書室を設置。
- ・座席予約システムを設置。1週間前からWeb予約が可能。
- ・授乳室、おむつ換え室、AV鑑賞室を新たに設置。
- ・1階、2階に事務所があったのを、1か所に統合。

⑤その他

- ・図書館を利用しているボランティア団体の数は1団体、読み聞かせの団体のみ。
- ・コロナ対応は市内全館統一を基本とし、窓口にパーティションを設置。各館での対策も工夫し、足跡マークも独自で作成設置。除菌機は指定管理事業者により異なる。
- ・駐車場は26台分しかなく、満車の場合は提携している駐車場を案内。1時間以内の駐車をお願いし、1時間以内の駐車は利用料の一部を浜松市図書館で負担している。

(2) 浜松市立流通元町図書館

①市民等との協働事業

- ・令和4年度実績で、企画展示43回、ミニ展示72回、イベント31回を実施。
- ・市内同一事業者受託館10館で連携自主事業を年数回実施。
- ・事業者本社発信の自主事業を数回実施。
- ・浜松市各課、静岡県との共催・連携事業を実施
- ・地域と協働した事業を実施

②指定管理者制度による、コスト削減やサービスの向上等

- ・スタッフのシフトを適正に組み合わせたタイムテーブルにより、人件費を適正化
- ・本社で物品を大量一括購入することによる、物件費の減少
- ・福利厚生・経理を本社専門部署で処理することによる、館の事務処理時間の低減
- ・図書館に関する情報、事例等を全国民間事業者受託図書館の社内SNSで共有
- ・スタッフ個人の段階に合わせた多様な研修制度によるスキル向上
- ・司書資格の取得に向けた金銭面でのサポートの充実
- ・個人情報厳守と国のガイドラインに沿った内部統制強化によるトラブルの抑制

③指定管理者制度による、職員の人材確保

- ・必要な人材募集をいつでもホームページから実施可能
- ・急な人材確保の要求にも、市内同一事業者10受託館や他地域から即戦力の人材を確保可能
- ・シルバー人材制度により、経験豊富なスタッフを長期雇用し、後進に継続
- ・障がい者体験実習受入れを通じた障がい者雇用により、障がい者雇用率5.74%を達成

④指定管理者制度と市施策・経営方針との整合

- ・図書館内グループウェアを通じ、中央図書館と常に情報共有
- ・年2回の館長会、各種連絡会、年3回の立入確認時に相互に情報・意見交換

⑤指定管理者制度のメリットとデメリット

- ・館毎の運営がまかせられているため、特色を出し、自由でスピード感ある対応が可能
- ・最長受託契約期間が5年のため、長期的な運営計画を立てにくい

⑥市内図書館の中で独自性を発揮するための取組み

- ・市民協働の例として、図書館の利用者8名によるコーナー展示「図書館の達人の本棚」の実施、地元NPO法人等と協働の野外おはなし会（4年連続実施）、民間書店と協働の写真パネル展、地元の子ども食堂の活動を紹介するパネル展示、ミニシアター、就労支援事業所のクッキー販売等の事業を実施。
- ・情報発信として、流通元町図書館X（旧ツイッター）、図書館だより、ラジオでの発

信等

- ・その他、児童サービスの強化（おはなし会等）、「俳句の里づくり事業」の実施等

⑦ 図書館の発注に際しての注意点

- ・毎週「新刊全点案内」により1次選書後、中央図書館の選定会議で決定し、発注。
- ・地区館の利用者層と地域特性に合わせた選書
- ・児童向け英語教本、LLブック、大活字本等の多様な需要に配慮
- ・その他、新聞・雑誌の書評欄や出版社のリーフレット等による多面的な選書に配慮

⑧ 浜松市総合産業展示館との協働

- ・年1回の防火訓練を、自衛消防隊と組み実施
- ・展示会場でのイベントに合わせたミニ展示の実施

(3) 磐田市立中央図書館

① ICタグ対応機器の導入及び所蔵資料へのICタグ貼付

- ・令和4年度に新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して導入し、令和5年4月より本格稼働開始。来館者が自ら貸出、返却ができるセルフ貸出機、セルフ返却機が利用可能。

② ICタグ導入による費用対効果

- ・費用対効果の判断は直ちには難しいが、セルフ貸出機・返却機の導入により利用者が分散し、円滑な貸出・返却処理がされ、利用者・職員の双方の負担軽減につながっている。
- ・ICセキュリティゲートを導入。館外への持ち去り防止抑止効果は今後検証。

③ ICタグ導入による業務改善、新たに生じた業務等

- ・貸出カウンターの人数減により、職員が配架・書架整理等の他業務に従事できる。
- ・処理漏れミス防止のための2度返却処理の際、新たな本の積み下ろし作業が増えた。
- ・セルフ返却機の導入でも2度返却処理、分別処理があり、手間はそれほど減らない。
- ・セルフ貸出機利用促進のため、当面の間、土日中心に案内係の職員を配置している。
- ・廃棄本のICタグを剥がす作業が新たに発生。ICタグは再利用。
- ・機器の近くに資料を置くとICタグを検知し、誤って処理されてしまう事象がある。

④ 貸出、返却の自動化についての実績、市民・来館者の反応

- ・概ね好評だが、お年寄りからはカウンターでとの声もあり、柔軟に対応。
- ・セルフ返却機は1冊ずつ入れる必要があり、時間がかかるとの声もある。
- ・全貸出に対する自動貸出機の利用率 44.1% (人数割合)、51.8% (冊数割合)
- ・全返却に対する自動返却機の利用率 72% ※CD、DVDはカウンター返却

⑤ 施設・設備の老朽化対策、取組

- ・修繕に係る予算の確保が課題。修繕予定表を作成し、計画的な修繕費を要求。  
照明LED化工事、自動書庫修繕、屋上防水工事、展示室改装、開架室内装工事、外壁タイル改修等

⑥ 電子図書館

- ・電子図書館協議会を2011年（平成23年）～2013年（平成25年）にかけて組織し、検討
- ・2016年（平成28年）10月にクラウド型電子図書館サービスを導入。
- ・コロナ禍により、2020年（令和2年）、2022年（令和4年）と貸出数が増加
- ・課題としては、PR不足、予算の確保、地域資料の充実、作業時間の効率化等